第１回新たなおおさか農政検討部会　議事概要

日　　時　　令和３年７月２７日（木）１０：００～１２：００

場　　所　　咲州庁舎４１階　共用会議室７

出席委員　　増田部会長、藤田委員、中筋委員、髙井委員、西辻委員、山口沙弥佳委員、山口力委員

内　容

１　事務局説明

* 「新たなおおさか農政アクションプラン」の評価について
* 大阪農業・農空間を取り巻く社会情勢について
* 新たな大阪農政の論点について（農業者からの情報提供を含め、主に成長と持続の観点から）

２　委員の主な意見

* **「新たなおおさか農政アクションプラン」の評価について**

　　〇コロナが終息した後の交流活動について、コロナ前には戻らないという意見もある。直売所を通じた交流等、様々な交流のタイプがあるので、タイプごとの今後の見通し等を検討すべき。

〇コロナ禍で交流活動が制約されたとあるが、市民農園については利用者が増加し、空いているところがない状況。行政所管の市民農園を民間で管理する事例があり、官民連携での展開が重要となる。

〇農業関連現場での女性の活躍が大切。子育て世代や女性が活躍できるような支援が必要。

〇「みどりの食料システム戦略」においてスマート農業に適した農地の整備が位置づけられる。大阪ではモザイク状の農地が多いが、例えば飛び地になっているところは、特例制度を作ってドローンが横断できるなどの規制緩和があれば活用できるのではないか。

〇農家が経営計画を立てるときに、災害に対するリスク管理の指導も必要ではないか。

* **大阪農業・農空間を取り巻く社会情勢について**

　　〇大阪府の人口動態から見てマーケットがどうなるのかという視点が必要。

〇農家を強い経営体に全て置き換えていくのは難しい。家族経営の農業が今後どのような役割を担っていくのかも検討するべき。

〇生産段階だけでなく、消費者マインドの変化や、流通段階の変化をどう捉えるのかが大切。また、大阪農業について大阪府民はどう見ているのか探る必要がある。

〇機能性野菜（加工品）については、需要が高まっていると考えている。マーケティング視点から大阪の農業ビジネスをタイプごとに分類し、ゴールを示していく必要がある。

* **新たな大阪農政の論点について（農業者からの情報提供を含む）**

　　<農業者からの情報提供：テーマ「新規就農」>

　　〇アグリアカデミアは、同じステージの農家と繋がることができる貴重な機会。

　　〇1,000万円以上稼ぐには、「稼ぐ＝栽培面積を増やす」という考えから脱却する必要がある。雇用や労務管理の効率化、科学に基づく農業展開などが重要となる。農業界だけではなく、付随する業界についても学ぶことが必要。

〇大阪で「売り先が無い」ということはありえないと思う。ターゲット、ニーズが自分の商品と合っているか考え直す必要がある。

　　〇ＳＮＳで知ってもらうことも大切。情報発信していない農家は世間から知られていないので存在しないのと一緒だと思っている。

<委員の意見>

〇農家の立場から捉えると、成長と持続の観点で、議論が進みすぎて現場の農家が取り残されている感がある。農家の意識を引き上げるような取組みが必要。

〇一つ一つの用語や中身について、実際の農業者に即した表現になっているか、丁寧に見ていく作業が必要。

〇家族経営に外部の人が入る、あるいは、雇用することによって、専門知識をもらったり、労働力が加わり、前向きに経営していく事例が増えていくのでは。

〇事業の中で消費者と向き合って思うのは、家庭内で料理をする人が減ってきているということ。そもそも大阪農業を知らない人はまだまだたくさんいる。食の都を楽しもうという、もう少し大きな視点から農業は何ができるのかを検討すると、消費者を巻き込みやすい。

〇都市の中で多面的な機能を発揮している大阪農業をどう消費者に知ってもらうかが大切。

〇今は食卓に並んでいる野菜がどこのものか分からなくなっている。野菜と産地の関係性が見えるようなものがまさに交流活動だと思う。単に都道府県を超えた枠組みを作るのではなく、関係性が重要と考える。

３　部会長による意見整理

　　〇トップ層でない農家の方々を底上げするような意識転換が大切。この視点が抜けていると感じる。

　　〇「食から見る農」といった発想の転換が重要。どういうシナリオが描けるのか考えなければならない。

　　〇消費者と生産者、また生産者同士を地域の中でどうマッチングするか。大阪農業の中で一人勝ちの精神ではなく、地域全体で発展していく、といった意識醸成を含めて考えていかなければならない。

　　〇高収益型農業の中でスマート農業の考え方は抜きにできないところ。大阪農業のモザイク化、小規模化した中でのスマート農業の在り方を検討していくべき。

　　〇各委員やゲストスピーカーからは成長と持続、環境国研、価値創造の３つの視点が重なる中心部分の話をもらった。分離して考えることはできないので、それぞれが重なった部分、または３つが重なった部分はどのような農業なのか、という視点が抜けないように今後議論していきたい。